川辺高同窓会報

発行
川辺高校同窓会本部
発行所
〒897−0221
南九州市川辺町田部田4150
TEL0993−56−1151
FAX0993−56−1152
県立川辺高等学校

川辺高校発展のため、絶大なるお力添えを！

同窓会会長
大坪憲市

明治三十三年の春、地域住民の熱意で創立され、百十三年の歴史と伝統を誇り、二万数百名を輩出した、鹿児島県第四中、鹿児島県立川辺高等学校。

全国各地、各分野で大活躍なさっていらっしゃる同窓会会員の皆様には、いつも母校に対して、熱い思いを賜り、さらにご支援・ご協力をいただき、誠に有難うございます。

母校は、平成二十五年度募集者数百二十名（三クラス）に対し、九十五名の入学者数となり、はじめて百名を割り込むという大へんな危機的状況にあります。この状況を打破するためには、学校側・PTA・同窓会・行政・地域住民が一体となり、川辺高校存続に向け、全力を挙げる必要があります。

南九州市内の中学生のうち、市内にある三県立高校への入学者が四割で、六割の生徒が市外の高校へ流出していることから、中学校側へのアピール不足が現況を招いたのではないか、との反省点のもと、中学・高校の連絡協議会を開催。また、PTAでも、中学・高校の話し合いを行っています。部活動のさらなる交流など、積極的に行ってもらっています。

本年、母校は、久しぶりに大阪大学工学部一名、九州大学工学部一名をはじめ、大阪府立大学、熊本大学、鹿児島大学など国公立大学に二十八名が合格。先生方の熱意あるご指導により、学力の伸び率は県下№1であると自負しているところです。

部活動でも、伝統あるなぎなた部や水泳部、バスケットボール部・美術部・書道部・野球部等の健闘も光っています。また、吹奏楽部も久方ぶりに金賞を狙っているところです。

川辺高校の頑張りを地域住民に理解してもらうために、ブログや市報、新聞などでいろいろの情報を発信しております。

いかにして中学生の目を本校に向けさせるか。また、入学しきた生徒をいかにして伸ばし鍛えるか。いろんな考えをお聞かせください。良いと思われることは、早急に対応してまいります。

母校川辺高等学校は、地域に密着した存在感のある学校、地域が必要とする学校です。鹿児島県第四中学校創立以来百十三年の歴史と伝統が存亡の危機を迎えています。今後、中高一貫教育等を視野に入れながら、卒業生二万数百名、PTA、行政、地域住民の総力を結集し、母校存続のために絶大なるお力添えをいただきますよう、お願い申しあげます。

「滔々と流れゆくもの」
～さらなる発展を～

校長
小屋敷　浩昭

真っ白な雲が眩しい青空に力強くせり出す日々が続き、水の流れや夜空の星の瞬きに涼を求めたくなる季節となりましたが、同窓会会員の皆様方におかれましては、ますます御健勝のことと拝察いたします。日頃から母校の教育活動充実のために神戈陵教育振興会事業をはじめ諸活性化対策の推進など、物心両面からひとかたならぬ御支援と御理解を賜っておりますことに対し、深く感謝申し上げます。会員の皆様方の母校に寄せる思いと期待は、頼もし

い御声援として心強く感じているところです。本年も本部同窓会総会が盛大に開催されますことを、心からお喜び申し上げます。

春爛漫の四月八日、新たに九名の職員を迎え、新任式・始業式を行いました。正門の桜がいつの時代も変わらない、息を呑むほどの美しい姿で温かく見守ってくれました。翌九日には在校生同席のもと第六十八回入学式を挙行し、やや緊張気味の表情ながらも希望と期待に溢れる九十五名の新入生を迎え入れ、全校生徒三百十一名と教職員三十九名からなる陣容が整い、新年度がスタートしました。純朴で礼儀正しい生徒たちが充実した高校生活を送るためには、文武両道の具現化に努めることはもちろん、柔軟な発想とみずみずしい感性で物事に真摯に向き合い、志を高くして将来の夢を実現させるために努力することが大切です。そのためには、多感な生徒たちの心に響く指導や個々のニーズに応えられる教育環境を提供することが学校の責務であると思います。

また四月に開催した創立記念講演会では、福岡同窓会の御協力もいただき、ふちだ内科クリニック理事長の淵田史郎先生をお招きし、「回り道でも一歩ずつ」と題して講演をしていただきました。先生は高校時代に熱心に取り組んだことや、大学を卒業してから開業するまでに様々な回り道をした体験などを中心に、迷いや挫折を乗り越えようとすることで人は成長していくこと、失敗の多いのが人生であるが無駄なことは何一つないことなどを熱く語っていただきました。生徒たちは真剣な眼差しで、説得力と含蓄のある話に耳を傾け、新たな挑戦への契機にしていました。

ところで、今春の進路状況ですが、それぞれの卒業生たちが頑張った成果を示してくれました。進学では、大阪大学をはじめ、九州大学、熊本大学、鹿児島大学、大阪府立大学など、国公立大学に二十八名（うち過年度卒二名）が合格しました。また、関東、関西、福岡、鹿児島等の私立大学にも六十名（うち過年度卒三名）が合格しています。そのほか、公私立短大、医療系専門学校などにも多くの合格者が出ています。鹿児島県警などの公務員はじめ、就職面も順調でした。こうした実績は、入学時に三年後の自分の姿を描き、夢を実現させるために指導に素直に従い、最後まであきらめない気概と努力の成果だと思います。近年、生徒数の減少傾向がありますが、職員は一丸となって「伸び率No.1」を目指し、生徒一人一人の個性を大切にしながら丁寧かつ細やかな指導を心掛けています。今年度も七月に三年生の学力検討会を実施し、今後の方策や指導の在り方等について共通理解を図ったところです。一、二年生は、夏以降に実施される大学の出前授業、進路講演会、神戈陵塾などを糧に、より高い進路実現を目指してくれることを期待しています。

また、部活動この一年間の主な成績ですが、なぎなた部が各種県大会で優勝（個人・団体・演技）し、全国高校総体、全九州高校総体、国民体育大会に出場しました。今年度も県大会で、演技・競技いずれも団体・個人と連覇を果たすなど、全国大会等での活躍が楽しみです。水泳部は県大会で上位入賞を果たし、全九州新人大会に出場するなど、めざましい活躍を見せてくれました。今年度も一年生が新たに加わり、県大会で優勝や上位入賞するなど、すばらしい成績を修めています。他にも、ソフトボール、テニス、バスケット、バレーボール、野球、サッカー、卓球、バドミントンの各部が上位進出を目指して頑張ってくれました。文化系では、書道部が高円宮杯日本武道館書写書道大展覧会で日本武道館賞、特選、金賞、銀賞を受賞するなど、活躍してくれました。美術部が南日本ジュニア美術展で特選となったり、ＥＳＳ部が県高校英語ディベートコンテストで準決勝進出を果たしたりしました。音楽部は県吹奏楽コンクールで銀賞でしたが、今年度はそれ以上の成果をという気概で練習に励んでいます。

他にも生徒会執行部や家庭クラブを中心に、挨拶運動、ボランティア活動（川辺二日市、祇園祭、清水磨崖仏祭、老人保健施設等の訪問、広瀬川クリーン作戦など）にも熱心に取り組んでいます。こうした活動は学校の伝統として

脈々と受け継がれ、校訓の具現化と「知・徳・体」の調和のとれた人材育成にも結びついていると思います。

滔々と流れている川は一滴の水から一筋の流れを生じ、やがて急流となって屹立した岩々を削り、さらに多くの流れを受け入れながらゆったりと流れていきます。上流から下流にかけての風景は、厳しく険しいものから穏やかでたおやかなものへと様相を変えていきます。しかし、流域にはある種、共通する性質が漂っているのではないでしょうか。形成されていく様は他の川でも同じですが、それぞれに地質、地形、気候、植生などに差があり、独自の個性が生じます。明治三十三年を原点とする本校の伝統と精神は、この地の風土とともに培われたものです。百十三年の時を迎えた現在でも、独自の「流れ」として確実に受け継がれていると思います。だからこそ、人は母校に想いを馳せる時、自分の根幹や生き方を形作り大きな影響を与えた場として、懐かしい気持ちを抱くのかもしれません。

最後になりますが、全国的に少子化の波が押し寄せる中、本校では生徒・職員が一つになって充実した教育活動を展開しています。今年度も同窓会の皆様方の深い御理解と御支援を賜りますことをお願い申し上げますとともに、川辺高校のさらなる飛躍と発展を、そして川辺同窓会のますますの御発展を祈念申し上げます。

東京同窓会

小原　東洋明（昭和38年卒）

新な飛躍を目指して、大平新執行部発足！

第三十七回東京同窓会は、前日までの豪雨が一転、まるで総会を祝うかのように晴れ渡った六月二十二日（土）、新宿ワシントンホテルに於いて、故郷・近隣故郷会のご来賓をお迎えし、総勢百七十名に近い出席者のもと盛大に開催されました。

故郷からは、大坪憲市本部同窓会会長・小屋敷浩昭校長・水溜孝志先生・恩師馬渡武弘先生が、九州南部に接近した台風の荒天のなか、たいへんな思いをされて駆けつけてくださいました。

恒例の講演会は、昭和四十六年卒の社会福祉士、岡野信久氏による「百歳を生きる人達」と題して、執り行われました。

百歳を生きている人たちの実例をご紹介しながら、講師の生きざまを交えた話には魅了され、教えられるところがあり多くの同窓生が力をもらいました。

講演の余韻覚めやらぬうちに、昭和四十五年卒、川原修二さんの発声で、第三十七会総会は開幕しました。

その人柄ゆえに人望厚く、またその慧眼により組織を束ねてまいりました鯵坂悟郎会長は、二期四年務められた会長職を辞する旨の表明をされ、大平政弘新会長（新役員は各地区同窓会連絡先参照）に向後を託され、新会長も力強くこれに応えられました。

さらに、当会発足当初から係わり女性陣を束ね、当会のマドンナとして長く親しまれた辰元房子、足立芙美子両副会長、この人無くして当会は成り立たないと言わしめた峯元政公副会長兼幹事長らが勇退されました。いずれの方も当会の大功労者であり、感謝状と記念品が贈られました。

郷里から駆けつけてくださった大坪憲市本部同窓会会長は、母校の振興・活性化のために地域・行政・保護者・同窓会が一体となって取り組んでいる様子、中高一貫体制の導入による活性化の動きなど、精力的な活動の様子を報告されました。

続いて小屋敷浩昭校長先生が登壇され、今春の輝

かしい進路状況と、九州大会・県大会でのなぎなた部・水泳部の頑張りが紹介されました。久々の明るい話題に参加者は安堵し、また新進気鋭の校長先生をお迎えし、期待は一層高まるばかりでした。

懇親会は、昭和四十五年卒、川原修二・矢島寿史さんが司会進行を務められ、昭和二十五年卒、松田健三郎さんの高らかな乾杯の発声で幕を開けました。

昭和四十五年卒年度幹事の企画による、往年の美男美女による制服ファッションショーは、慕情にも似た懐かしさとほろ苦さを呼び起こし、故郷の焼酎の香り、つけあげの味、そして学生時代の仲間と舞台がそろっては、忽ち古に引き込まれていかざるをえません。素晴らしい笑顔・訛り懐かしい生き生きとした会話、同窓会ならではの光景が彼方此方で見られました。

同窓会には付き物の校歌合唱で懇親会は最高潮に達し、昭和二十九年卒、上村又一郎さんの万歳三唱、南谷亘英副会長の閉会の挨拶で、来年の再会を約束し閉会いたしました。

故郷は遠きにありて思うものでしょうか。母校から遠く離れた東京同窓会では、帰郷した会員からの、ホームページ・ブログ等からの、様々な母校の情報を手掛かりに、幹事会・評議員会・役員会いたるところで母校の活性化・振興について議論しています。本部同窓会・先生方との交流会を通じて、僅かでも貢献できればと思っています。

先の野球部へのピッチングマシーン贈呈にも多くの会員の皆様が賛同され、また当同窓会としてもご協力をさせていただきました。

歴史ある我が母校の伝統を繋ぐべく、大平新執行部体制の下、可能な限りの努力を注いでまいります。

東海同窓会

佐多　和夫（昭和39年卒）

平成二十四年十月七日（日）隔年ごとに開催することになって四回目の第二十一回東海同窓会を、いつもの熱田神宮近くの庭園付畳会場の賀城園にて開催しました。今年は出席者の高齢に合わせて椅子席としました。

当日は、同窓会本部の大坪憲市会長・母校から宮園秀昭校長先生、そして同窓会事務局の藏前勇先生のご臨席を賜りましたが、ご三方には初対面となりました。

当会同窓会会員からは九名参加され、総数十二名の開催となりました。

飯野東海同窓会長は、体調不良により欠席されましたが、二反田続男副会長の挨拶と、日置宏輔副会長の乾杯の音頭により開催しました。

宮園校長先生からは、進学状況として、国公立大学、また有名私立大学への高い合格率が進路指導の結果として表れた。また、部活動でも多くの部が活躍の成果があったことを話されました。

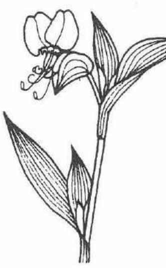
そして、大坪同窓会本部会長からは、同窓会会長に選任された経過や、生徒獲得の苦労話などがなされました。

また、藏前先生からは、事務局としての抱負や、部活動等についての経過など話されました。

現況として、少子化の影響で今年は三クラス編成となり、入学生が少なくなってきていて、学校の存続に係わる危機感を抱いていることを実感しました。新聞折り込みの広告をしたり、中学生のいる家庭にも訪問したりして、生徒獲得に一生懸命努力されていることが伝わってきました。

今回も、藏前先生から手作りのしおりのプレゼントがあり、また地元の焼酎の差し入れを飲み交わし、同会場でのカラオケに興じた和やかな会に盛り上がり、最後は旧と新の校歌を合唱し、茂原則子副幹事

長の閉会のことばで終わりました。
　東海同窓会も高齢化が進み、参加者が少なくなって寂しくなりました。
　私事、幹事長を長年してきましたが、次回からは神野幹彦氏と交代します。今まで色々とお世話様になりました。
　最後に、母校のご発展をお祈り申し上げます。



関西同窓会

大薗　早夫
（昭和41年卒）

　平成二十四年度の川辺高校関西同窓会は十一月十一日（日）に、例年の会場であるＵＳＪ近くの弁天町にあるホテル大阪ベイタワーにて開催されました。生憎の雨で多くの欠席者も心配いたしましたが、今回来賓として大坪憲市本部同窓会長、宮園秀昭校長先生、水溜孝志先生、恩師として野間清光先生（昭和四十年～五十年在籍、倫社政経担当）をお迎えし、三十八名の参加で盛大に行うことができました。
　第一部の総会では、岩屋口会長から四名のご来賓に対し、ご多忙の中ご臨席いただいたお礼と、もっと活力ある同窓会運営に力を注ぎたいとの抱負が述べられました。続く活動報告と会計報告監査も滞りなく終了しました。
　第二部では宮園校長から、川辺高校の現状について詳しいご報告がありました。進学状況については、国公立大学二十九名の合格者の他、関東関西の有名私大への合格者を出すなど実績を上げるべく努力していること、部活動やボランティア活動についての報告、とりわけ夏の甲子園大会の県予選にて、我が川辺高校が毎年の一回戦ボーイを脱し、鹿児島中央高校に勝って校歌を万感の思いで聞いた事、二回戦では、強豪の鹿児島商業に九回まで接戦を演じて最終回エースの力投空しく痛打されたが、翌日の新聞ではその健闘が光ったことなど切り抜き資料をもとにお話がありました。
　大坪会長から少子化の中、努力の甲斐もなく伝統ある川辺高校の募集人員が定員に満たず四クラスから三クラスへ減学級になったこと、何とか学校関係者、自治体、ＰＴＡ、同窓会と連携し「来たれ！川辺高校へ」の熱いメッセージを語ってくれました。
　本校から出席いただいた五十五年卒の水溜孝志先生には学校概況報告、川辺高校だより「陣が丘」や神戈陵塾の内容及び種々大会の活動の姿を彷彿とさせる報道切抜きの資料を用意いただきました。また、日々更新されているブログで川辺高校の近況が分かるとＨＰの紹介と報告がなされました。
　懇親会の部に入り、昭和二十二年卒の鎌田稔さんから「まさか川辺高校が…うそだろう。何とかしようよ、みんなで盛り上げよう」と、母校の隆盛を祈念した乾杯のご発声をいただき開宴となりました。
　乾杯直後のご来賓の野間先生は、とても八十才とは思えない元気な姿、張りのある声で凛とした校風の川辺高校への愛着と発展を願う言葉がありました。日常では西南の役で没した親族も眠る墓所の清掃を欠かさず、いくつになっても世のため人のために日々充実した生活を心がけている。そのために心身の鍛錬で免疫力を高める事・筋力アップ・贅肉（脂肪）をとることの三つを心がけていること。健康寿命を長く保つことが大事とのお話があり、参会者一同深い感銘を受けました。
　ご来賓の方々からいただいた地元の焼酎やつきあげに舌鼓をうちながら、やはり母校を盛り上げよ

うとする参加者からまず木原康雄さんから提案がありました。川辺高校の求心力は何か？魅力ある学校づくりに何かお手伝いは出来ないか考え、自分は野球部OBであり、また本部の大坪会長も野球部出身で、母校隆盛の最初の一手となるよう、励ます会としてピッチングマシーンを贈るべく基金を募ることにしたと協力呼びかけがあり、多くの方から呼応する声が上がりました。

新入生減少の危機感から如何に魅力ある学校づくりをすべきか、参加者の東亭さん（四十一年卒）から、起業家としての自分の人生経験からIT教育と英語教育を徹底し、世の中で活躍できる人材を輩出することが大事だとの力強い提案がありました。

また、三十九年卒の女性陣からもエールがありました。各テーブルに用紙が配られ、どうしたら新入生が多く応募してくれるか、アイデアを書いてもらいました。用紙は大坪会長に託し、学校側に渡してもらう事にしました。

低迷状況を憂う危機感から、逆にピンチをチャンスにすべく同窓会は盛り上がり、記念撮影の後、わざわざ鹿児島から駆けつけてくれた前事務局長の茶薗義文さんの音頭で校歌斉唱、最後は二十六年卒の中島三博さんの閉会の挨拶・万歳三唱であっという間の三時間が過ぎ、熱き心を持ち帰りました。

〟川辺高校よ！永遠なれ〞母校と同窓会の発展を祈念し報告とします。

福岡同窓会

事務局長　南谷　洋至（昭和49年卒）

一　毎年十月の第三土曜日に予定している福岡同窓会は、今年も平成二十四年十月二十日(土)午後二時より、福岡国際ホールにて盛大に開催されました。

二　福岡同窓会の歴史（不滅の定番原稿です）

福岡同窓会は、故牧角三郎会長（昭和十二年旧制中学校卒）の下、第一回同窓会として、昭和五十五年に産声をあげ、しばし中断のあと、創立九十周年を機に南谷知成会長（昭和三十六年卒）他有志により、平成二年に第二回同窓会が復活し、以後毎年開催され、今回で二十四回目となりました。

これもひとえに、永見彌瑩先輩（昭和三十四年卒）を中心とした「美人のお姉様たち」の献身的な努力と、司会の名人本田正郎先輩（昭和三十一年卒）を中心とした「いつまでも少年の心を失わないおじさんたち」のお陰とするところです。

この歴史に支えられた福岡同窓会は、世代を超えて、気さくに話せる雰囲気が充満し、二次会のもつ鍋まで誰も帰ろうとしないことが何よりもうれしい特色です。

三　今年は、我が会のエンターテナー本田正郎先輩を筆頭に、若手というには少し歳を取った鶴田浩君・丸野一誠君の昭和五十五年卒コンビまでの個性的な同窓生二十名（男十六名、女四名）の参加で、いつもより参加者が少なくなりましたが、かえって盛り上がりました。

四　会は、ユーモアあふれる本田先輩の名司会のもと、堀内勉副会長（昭和四十二年卒）の開会宣言に始まり、亡師亡友に黙祷を捧げたあと、佐田竹良会長が所用で欠席のため上野修一副会長が挨拶され、ご来賓のご紹介となりました。今年は、本部同窓会から大坪憲市会長、本校から宮園秀昭校長先生、藏前勇先生のご来賓をお迎えして、貴重な情熱あふれるお話を頂戴致しました。

五　その後、旧制中学校校歌（一番、二番）、高校校歌（一番、二番、三番、四番）を熱唱して、一気にヒートアップしました。続く乾杯の音頭は、水泳部出身の熱血漢である上木原純一郎先輩（四十三年卒）にお願い致しました。

六　酒が入ったと

ころで、今年も、参加者全員から一分間スピーチということで「あいやらこいやらの近況報告」をお願いしました。皆さんしゃべり出すと、ブレーキがすっかり壊れて、近況の報告、高校時代の懐かしい思い出や、豊かな人生に向けての抱負などの話が尽きることなく続き、所定の一分間を守った人は一人もいませんでした。途中、第六応援歌を絶叫し、もう一度校歌を歌い正気になったところで、万歳三唱し、最後は、堀内副会長の閉会の辞で、記念撮影となりました。すでに時間は午後六時になっておりました。

七　二次会は、恒例のもつ鍋屋で、身も心も予算もぎゅうぎゅう詰めになって、それぞれに、夜が更けて行きました。

今年も皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

川辺高等学校万歳！万歳！万歳！

川辺同窓会

有薗　琢也
（平成2年卒）

毎年恒例の川辺高校同窓会が、平成二十四年八月四日（土）南九州市川辺町の「ひろ瀬」で開催されました。男性は平成十一年卒業生、女性は平成二年卒業生が担当幹事でそれぞれ役割を分担し準備いたしました。

当日は南九州市内外からの参加者をお迎えすると共に、学校関係者の御出席も頂き盛大な同窓会を開催することができました。

川辺高校吹奏楽部の軽快な演奏によるオープニングセレモニーで始まった総会では、大坪憲市同窓会会長、宮園秀昭校長をはじめ来賓の方々のあいさつをいただきました。その後、昨年まで長年にわたり川辺高校同窓会長を務めていただきました前野政美前同窓会会長に感謝状と記念品の贈呈が行われ、参加者から惜しみない拍手が送られました。総会では平成二十三年度の活動報告・決算報告、平成二十四年度の事業計画案・予算案などが審議されすべて承認をいただきました。

引続き行われた懇親会は松久保正毅南九州市市議会議員の乾杯のあいさつで盛大に始まりました。参加いただきました皆様は同窓会をとても楽しみにされており、ひさしぶりに再会した同級生や先輩方との思い出話に花が咲いていました。また、サウンドメイツジャズオーケストラによる演奏も行われとてもにぎやかな懇親会となりました。会の最後は校歌を全員で斉唱し、宇都寿彦川辺高校PTA会長の万歳三唱の後、来年度幹事のあいさつで閉会しました。

今回の同窓会が盛会のうちに終了できましたのも、同窓会会長をはじめ役員の方々と同窓会事務局の先生方や関係各位のご尽力の賜物と深く感謝申し上げます。最後になりましたが母校川辺高校が今後も力強く発展していきますことを御記念致しまして報告とさせていただきます。

南九州市職員神戈陵会

書記・会計　加覧　喜次
（昭和56年卒）

第三十三回南九州市職員神戈陵総会を平成二十五年六月六日に川辺町の「ひろせ」で開催しました。

総会は、南田会長のあいさつの後、平成二十四年度事業経過及び収支決算報告の承認と平成二十五年度の事業計画(案)及び収支予算(案)の審議・採決が行われ、新原新会長を先頭に本年度の活動が始まりました。

総会後の懇親会には、大坪同窓会長と川辺高校の小屋敷校長先生をはじめ、

四人の先生方にも参加していただき、川辺高校の現状や同窓会の活動等についての懇談がなされました。特に本年四月からの一学年三クラスのことや今後の南薩地区の高校再編のことについては、地域にとっても大きな問題であることから、会員もそれぞれ意識を改めての懇談となりました。

　南九州市職員神戈陵の前身であります川辺町役場職員神戈陵会は、昭和五十六年六月に設立されましたが、その年の四月に私は役場に入庁しており、設立総会の様子が今も記憶に残っていますが、まさに役所人生と神戈陵会の活動参加がともに歩んでいるように感じています。

　時が経つにつれて変わっていくものと時が立っても変わらないもの(変わってはいけないもの)がバランスよく調和して、様々な社会活動はうまく展開していくように思われます。

　神戈陵会の活動もその一つではなかろうかと感じながら書記・会計を一年間勤めさせていただきます。

三六会 〝古希〟記念同窓会

塩入　俊六
(昭36年卒)

　この所、隔年毎に実施している私たち三六会の同窓会は、この世に生を受けて七十年が経過した今回、その名も古希記念と銘打って、平成二十四年十月二十六・二十七日の二日間に渡り、鹿児島市内のホテルで開催されました。

　初日、関東や近畿・東海をはじめ、県内外から参加した五十五名は、久々の同級生との再会を喜ぶと共に、今回唯一ご出席いただきました恩師の森田昌輝先生とご一緒に、古希を迎えることが出来たことの感激と喜びを分かち合いました。

　記念撮影の後、いよいよ同窓会です。冒頭のあいさつの中で、今回出席出来なかった恩師の一人、大山邦博先生からのメッセージが紹介され、また、森田先生には、自らが古希を迎えられた当時の貴重な体験を語っていただきました。いずれも、私たちの今後の生き方に関する貴重な檄文であり、訓話でしたが、恩師の言葉というのは、幾ら時を経ても重たく、有り難いものであり、誰もが真剣に聞き入っていました。

　また、祝宴に入り、乾杯や懇談へと流れが進む中では、当然、いつもながらの思い出話等もありましたが、古希を迎えた今回、先に厚生労働省が発表した男子の「健康寿命」(七〇、四二歳)とほぼ同じ年齢での同窓会であるだけに、体調不良等を理由に参加できなかった同級生に思いを寄せ、また、これまでの人生を振り返りつつ、〝今を、そして、これからをどう生きるか〟をテーマとする語らいが主流であったように思います。

　一方、今回初登場のマンドリン演奏でスタートした余興では、次に、今や本同窓会恒例のの出し物となった華麗なフラダンスショーがこれに続くと、今度は、急きょ出演が決まった迷コンビによるおかめ・ひょっとこの俄コミックダンスまで登場。更には、そのひょっとこを先頭に〝かごしま小原節〟が始まると、見る見るうちに輪は広がり、会場の雰囲気は最高潮に。そして、極め付けは、何と言っても、久し振りに四番まで歌った我が川辺高等学校校歌の大合唱です。それこそ、私たち三六会の一体感が更に増した瞬間でした。

　二日目、「維新ふるさと館」や「桜島」を中心とする久々の修学旅行への出発です。お陰さまで天気は上々、それに、自らを綾小路きみ子と名乗るベテランガイドさんの名調子にも乗せられ、それは笑い

の連続でした。中でも印象深いのは、車内でのガイドさんとの掛け合い問答や船内展望所での楽しそうな会話の様子、それに、溶岩なぎさ公園内にある日本最大級の足湯で天然温泉を楽しむ姿や道の駅で桜島小みかんソフトクリームを美味しそうに食べている様子でしょうか。いずれにしても、高校時代、いや、それ以前?を思い出させるような光景のオンパレードであり、正しく「修学旅行」そのものだったと言えると思います。

さて、次期開催地も関東地区に決まり、「元気に、みんなで再会しよう」と確認し合って幕を閉じた今回の同窓会。こうして、改めて振り返ってみますと、あっという間の二日間だったように思いますが、正にその二日間を、同級生の仲間達と楽しく、共に過ごすことが出来たこと自体、貴重な思い出になるものと信じますし、また、必ずや今後に繋がるものと期待する次第です。

なお、会の途中、東眞弘川辺同窓会副会長による「母校近況紹介」の中で、母校の存続に係わる厳しい現状が報告され、併せて、募金に関する提案が趣意書をもってなされました。このことについては、ここ最近の各地区での同窓会や役員会等でも提起され、喫緊の課題であることから、直ちに理解と賛同を得、募金へと進むことが出来ました。ここに、集まった募金七万円と本同窓会の決算に基づく残金二万五千円とを合わせた九万五千円を母校振興発展の一助として贈呈したことを報告させていただきます。

最後になりましたが、今回の同窓会開催に当たりましては、学校の概況説明資料や沿革をはじめ、地元南九州市の広報や観光案内等々、多くの資料を準備し、提供していただくなど、高校には大変お世話になりました。心から感謝申し上げると共に、母校の益々の発展を祈念いたします。

珊瑚会古希同窓会を終えて

水溜　義彦（昭35年卒）

昭和三五年卒業生で結成する珊瑚会同窓会は、全国規模で三年に一回開催してきました。この度、全会員が古希七十歳となったのを機会に、平成二十四年十月二十六日に、鹿児島市のホテル「ウェルビューかごしま」で開催しました。

全会員への呼び掛けは、今回が「最後の同窓会」として案内(宿泊込)しましたところ、未だかってない七十七名の方の出席（会員の約四割）を得て盛大に開催でき、無事に終了しました。

実行委員会の幹事の皆様が、約一年にわたり数回の打合せ・住所確認の電話連絡＋案内ハガキにも一言添えたりして、本人のみならずだが家族も体調不良で出席できない人もたくさんいましたが、きちんと返信して頂きとても有難かったです。

当初の案内で、約九十名が出席予定となっていたのですが、案内から開催日まで約六カ月の期間があったため、その間に本人や家族が病に倒れたり死亡したりして、出席できない会員が十数名出てきたのが残念でなりません。（そういう年代を再確認しました。）

待ちわびた同窓会も始まり、先ずは、在校時のアルバム等を映像化して流したところ、大歓声あがりました。卒業後五十二年振りに参加した人もいて、顔を合わせるたびに名前を確認し数秒置いて「なんだ、おまえか」なんて大声を張り上げる光景をあちこちで見ることができました。

何十年すぎても、「おい、おまえ、おれ、あんた」で昔に返って話し合え、そし

ていつの間にか、童顔に戻って、若返って時を過ごしといました。

能の祝儀舞に続いて、日本舞踊、太極拳、地元の踊り一座等々、盛り上がった頃に終わりに近づき、三時間という時間がとても短く感じました。

二次会は会場には入れないほどの参加者があり、これまた大盛会でした。物足りない連中は幹事部屋での三次会ときて、夜更けまで続きました。翌日は、市内観光さつま弁で花が咲いた半日旅でした。

珊瑚会は今後、全国の各地区で、それぞれに実施するということとし全国規模の開催案内は、今回を持って最後とすることで提案し了承を頂きました。（毎年開催すべしという意見も出た）

また母校が定員減により危機的状況にあることを報告し、会員の皆様のご協力を強くお願いしました。

最後になりましたが、「最後の同窓会」が会員の皆様のご協力と実行委員会幹事の方々のご尽力により成功に終わることができましたことに対し心から感謝いたします。有難うございました。

珊瑚会の皆様、何時までも元気でありますようお祈りいたします。

古稀と卒業50周年を祝う会

有村　泰（昭37年卒）

川辺高校昭和三十七年卒業生の「古稀と卒業五十周年を祝う会」（三七同窓会）を平成二十四年十一月二日（金）、鹿児島市内の「パレスイン鹿児島」で開催しました。

それまで、何回か実行委員会を開き、「県外からの出席者に便利な場所で」「写真は自分たちで」「恩師は呼ばない」…など意見を出し合って実施しました。

当日は、関東・関西をはじめ、県内外から六十七名（出会率四十％）の参加があり、会場は、和やかな雰囲気に包まれ、還暦同窓会以来の再会を喜び合う光景に溢れていました。

午後五時、有村泰事務局長の司会の下、「亡師・亡友への黙祷」を捧げた後、霜出佑二君の「実行委員長挨拶」、中村祐子さんの「歓迎のことば」、東京在住川野博一君の「参会者代表挨拶」と進行して行きました。

その後、折田正代さんの指揮で「新制高校校歌斉唱」と前野勝弘君の「閉会の挨拶」があり、「式典の部」（第一部）を閉会し、手持ちのカメラで全員の「記念撮影」を無事に済ませました。

司会者も石踊徹志君に代わって、「歓談の部」（第二部）に入り、前城美章君の「乾杯の音頭」で参加者の心が一つになり、和気あいあいの華やいだムードになりました。

次に、参会者がクラスごとに壇上に上がり「三十秒スピーチ」で自分紹介や近況報告など思い出の話が弾み、時間の経つのも忘れる愉快なひと時となりました。

続いて、「カラオケ自慢」

の持ち歌披露があり、いよいよ予算を奮発した「お楽しみ抽選会」へと移り、各テーブルからジャンケンで選ばれた人に「幻の焼酎」が当たるというので大いに盛り上がり、場内は固唾を呑んで見守り、「森伊蔵」「村尾」「萬膳」「伊佐美」「華ほたる」等が当たる度毎に歓声が沸きあがりました。

終わりに、「旧制中学校校歌」を斉唱し、宮崎在住泊直十郎君の「万歳三唱」で締めくくり終宴しましたが、その後も、「二次会へのお誘い」があって、天文館へと繰り出し、多くの午前様が出る始末でした。

今なお、参加した六十七名の皆さんの生き生きとした満足げな姿がすっかり焼き付いており、何年か後に、再会できることを願わずにはいられません。

三十八年卒古稀同窓会

島田　敏久（昭38年卒）

平成二十五年六月五日(水)と六日(木)、一泊で鹿児島市の城山観光ホテルにおいて昭和三十八年に卒業した仲間五十七人（男性二十八人、女性二十九人）が集い古希を祝う同窓会を開催しました。

私たちの卒業した昭和三十八年（一九六三年）は翌年の東京オリンピックの開催を控えて都会では高速道路や新幹線などの突貫工事で日本経済は高度成長路線をまっすぐ走りつづけておりました。また川辺でも町にある映画館は、吉永小百合の「キユーポラのある街」などが上映されていて立ち見で足の踏み場のないぐらいの混雑でした。

高校から広瀬橋までの商店街を歩けば、小林旭の「ズンドコ節」や橋幸夫の「潮来笠」が町のいたる所から流れてくるそんな活気ある魅力的な町で、そうした環境の中を私たち第十五回生は昭和三十八年三月に一九八名（男子六十七人、女子一三一人）の仲間と一緒に旅立ってゆきました。

それから五十年が過ぎ、今年大多数の仲間が数え年で七十歳の古希を迎えることになり人生の節目として古希を祝いお互いの親睦をさらに深めるため同窓会を開いたらという声が方々から上がってきたのです。

還暦の同窓会を平成十六年十月に箱根湯本の「吉池」で行って以来とあって今回は鹿児島地区の幹事九名が中心となり関東や関西の仲間とも連絡をとりあいながら約八か月間にわたり古希同窓会開催の準備をしてきました。

そしていよいよ六月五日の当日を迎えました。受付は午後四時開始と案内してあったにもかかわらず、関東や東海、関西方面から、また鹿児島県内の仲間たちさえも午後二時ごろから集まりだし、受付予定の午後四時前には参加者五十七名全員が揃う優秀さ。高校の始業時間もこんなにも集まりが良かったかな～と思い浮かべることでした。

会場となる城山観光ホテルは私たちが卒業したまさしくその年、昭和三十八年三月創業でいわば私たちの卒業記念みたいなホテルです。その上二人の若い川辺高校の後輩がこのホテルで働いておられるということで、母校の品格を汚さないように各人それなりの顔をして三階飛鳥の間に入ったのです。

出席者の大多数が五十年ぶりの再会で、お互いの名札と顔を見比べながら五十年前の学生服姿、セーラー服姿を思い起こすことでした。

午後四時三十分よりの第一部の式典開始に先立ち、早くして旅立った二十四名の亡き友への黙祷を

ささげさして頂きました。

江田耕造君の司会で始まり島田幹事代表挨拶、そのあと西武文君より母校よりいただいた資料にもとづいて川辺高校の近況説明があり、最後は五十七名の同級生全員で城山のこの地に高らかに響くよう川辺高等学校校歌を四番まで歌い上げました。この後ホールに出て全員で記念撮影をしてからいったん休憩となりました。

午後六時から第二部の懇親会が同じ飛鳥の間でひきつづき江田君の司会で始まり、まずはオープニングに先駆けて古希を祝う祝儀舞を大倉野美代子さんに格調高く踊っていただき、この「長生舞」で同窓会の雰囲気がいよいよ盛り上がってきました。

母校の教頭も務められた黒松武蔵さんの乾杯で宴が始まり、城山観光ホテルが誇る和食会席料理と会話に堪能しつつ、また途中では今村美枝子さんの艶やかな日本舞踊もご披露いただき赤坂か祇園にでもいるようなそんな錯覚に皆が陥りました。

古希同窓会らしく華やかで格調高い宴席がつづいたせいか飲み放題にもかかわらずお酒の量が減らなかったようです。それでも時間と共に各テーブルごとに入り乱れて記念写真を撮ったり、五十年ぶりの再会を喜び合ったりと懇親会場「飛鳥の間」の二時間があっという間に過ぎてゆきました。

また同窓会副会長の薗田政嗣君よりの提案で川辺高校の資金カンパも集められ出席者全員の母校を思う気持ちが一丸となった良い一幕もありました。

午後八時、閉会の辞は前田和宏君の中締めで、ひきつづき同じ館内の二次会場であるパーティーホールへとほぼ全員が移動いたしました。

この会場では無礼講となっておりカラオケにダンス、本当に古希を迎えた人達だろうかと思われるような若さを発揮し、最後は全員で手をつなぎ輪になって舟木一夫の「高校三年生」をいつまでもいつまでも歌いつづけることでした。指揮は元音楽部の大倉野苓子さん。

お泊りになられない方もおられたので午後十時泣く泣くお開きとなりました。

桜島と鹿児島市の夜景を眺めながら浸る露天風呂、またそのあと館内バーで談笑するグループ、部屋に集まって午前二時頃まで語り合う仲間たち。それぞれ気持ちは全員が五十年前の川辺高校生に戻ったようです。

翌朝は朝食の後九時三十分に宿泊者三十三名でホテルロビーをお借りしての解散式となりました。別れはとても辛いですが、それぞれ家路へ急ぐ者、郷里の墓参りに行く方、観光に出かけていく仲間たち、「次の喜寿までは皆元気でいようね」が合言葉で全国にまた散らばって行きました。

最後になりましたが古希同窓会を開催するにあたり母校より学校概況資料をはじめ沢山の資料をいただきありがとうございました。

今回の古希同窓会は卒業生として私たち一人一人が母校に対して何ができるかを考える良い機会となりました。川辺高等学校のますますの発展を祈念せずにはいられません。

南さつま地区神戈陵会

幹事　松木田統一（昭52年卒）

私ども南さつま地区神戈陵会は、上東書三会長（昭和三十六年卒）を中心に平成十八年七月に発足し、今年で八回目の同窓会を開きました。

七月十三日(土)例年のとおり南さつま市加世田地区中心部でレストランを経営する今村勝徳氏（昭和三十九年卒）のブルドッグに総数二十四名の関係者が集まりました。

今年は大坪憲市本部同窓会会長様および新校長の小屋敷浩昭校長先生、宇都寿彦PTA会長、橋口浩二郎教頭先生、畦地茂行事務長先生、中尾龍二・水溜孝志両先生計七名の来賓が出席くださいました。

開会のあいさつを上東会長が行ったあと、大坪同窓会会長様に同窓会の活動状況を小屋敷校長先生には、学校側で作成された学校現況説明資料をもとに説明をいただきました。お二人とも入学生の減少が課題であるので、参加会員にあらゆる方面から支援をお願いしたいとのことでした。

以上で全体会が終わり、

続いて西浩二幹事長（昭和四十八年）が懇親会開会のあいさつの中で、母校を応援している、入学者は減少しているが、退学者を出さない努力もお願いしたいとの思いを話された。

次に、旧制中学校卒の上太田陽一氏（昭和二十三年卒）が、当時は近隣の優秀な人材が旧制川辺中を目指した、今後の母校の再興と参加者の健勝を祈念しての乾杯発声で開宴しました。

母校の縁で集まった皆様も時間が経つにさらに盛り上がり、気が付くと三時間が過ぎてしまいました。

最後に、橋口教頭先生の締めで盛会のうちに終了しました。

感想としまして、我が同窓会の参加者増も課題であると感じました。

鹿児島同窓会

事務局長　寺師　慶志（昭41年卒）

鹿児島同窓会の平成二十五年度「神戈陵のつどい」（総会・懇親会）は七月二十七日（土）、鹿児島市のジェイドガーデンパレスで開き、五十九人が出席しました。

来賓として川辺高校同窓会長の大坪憲市さん（昭和四十一年卒）、川辺高校の小屋敷浩昭校長、橋口浩二郎教頭、同窓会担当の中尾龍二教諭、水溜義彦教諭がかけつけました。

総会は松田量次さん（四十五年卒）が司会・進行役。冒頭、亡師亡友へ黙とうを捧げました。

主催者の椎原耕・鹿児島同窓会長（二十六年卒）が「暑い中、また天気不良のなかお集まりいただきまことにありがとうございます。また、今回当番の四十五年卒の皆さんには厚く御礼申し上げます。短い時間ですが、今夜は大いに楽しんで下さい」と挨拶。

来賓祝辞として、大坪憲市会長は「川辺高校は大変危機的状況にあるということを昨年から申し上げてまいりましたら、大阪の木原先輩から『男の子がたった三十人ぐらいしかいないでどうするのか』という話から、ピッチングマシーン購入の浄財二百六十数万円が集まりました。雨天のときでもバッティング練習ができるゲージも四つできました。来年、かなり力になってくれると思います。

県教委の人事担当だった小屋敷先生を校長に迎えることができました。川辺高校にさらに優秀な先生方をそろえていただきたい。生徒数は少ないが、本当に実績が上がったという結果になってほしい」と述べたあと、徳之島出身で、なぎなたで目覚ましい活躍の女子生徒や、川辺中で活躍している水泳選手を例に「いろんな形で川辺高校をアピールしていきたい」と力を込めました。

進学状況について、「大阪大学工学部、九州大学工学部など国公立大学に二十八人も合格。高校入学時の成績からみれば大成功と言えます。先生たちが一生懸命鍛えてくれるおかげです。難関大学の合格を喜ぶだけでなく、生徒たちが最終的にどんな仕事、何をやりたいのかの希望、夢を実現させてあげたいものです」。

小屋敷校長が学校の現況を報告。事務局から会務・決算報告。監事の黒松

武蔵さん（三十八年卒）が「大変誤りなくきちんと整理されていた」と監査報告。「年会費の納入者がもっと増えるよう学年同窓会など横の連絡を取り合いながら呼びかけしてほしい。そしてできるだけ総会に出席してほしい」と要望しました。

引き続き懇親会。出席者の最年少、柳誠子さん（五十四年卒・県議会議員）が乾杯のご発声をつとめ、「私もなぎなた部の主将をつとめた」とエピソードを披露。「地元、同窓会、先生方がこんなにがんばっていることを今後も県に訴えていきたい。皆さま方とともに川辺高校を盛り上げていきたい」と力強く述べました。

余興として、鹿児島国際大学の学生チーム「よさこい部」十五人による演舞があり、「黒田節」など舞台狭しとばかりの若さに圧倒されました。メンバーのなかに川辺高校出身の女子学生がおり、ひときわ大きな拍手を浴びました。

部活動報告

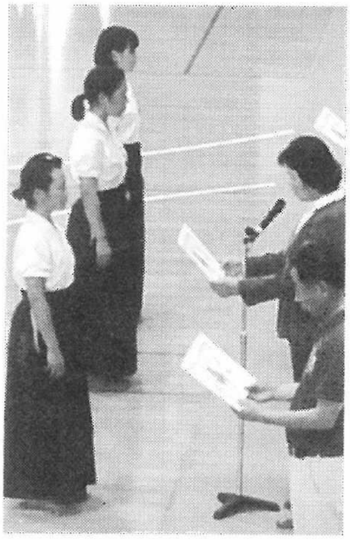
【薙刀部】

三年　野田　優太

私たち薙刀部は、鳥濱菜月主将のもと女子五名、男子一名の計六名で活動しています。先日行われた鹿児島県薙刀競技大会では団体優勝、九州大会では鳥濱菜月主将が三位になるなどの成績を収めました。

日々の稽古は、全国大会で優勝経験のある村松陽子先生にご指導いただき、演技競技・試合競技共に、基本に忠実な稽古でしっかりとした打ち、綺麗な薙刀ができるよう、精進しています。

先ほど書いたとおり、男子部員は私一人です。男子が薙刀を振るということに、少し疑問を感じておられる方もいると思います。そこで、私が薙刀部に入部を決意した理由を書かせていただきます。私が薙刀部に入ろうと思ったきっかけは、部活動紹介の時に、美しく迫力のある薙刀や、気迫あふれる先輩方の姿に感銘を受けたからです。入部後は退部をしようかと迷った時期もありましたが、村松先生のご指導のおかげで、今まで薙刀を振り続けることができました。まだまだ未熟ではありますが、もし機会があるなら、今後も薙刀を振り続けたいと考えています。



最後に、活動の様々な面で支えてくださっている保護者の皆様や、励ましの言葉を送ってくださる先輩方、日々熱心にご指導してくださる先生方、また、いつも温かく見守ってくださる同窓会の先輩方、すべてのお世話になっている方々、本当にありがとうございます。また、これからも応援をよろしくお願いいたします。

【野球部】

主将　安田　峻

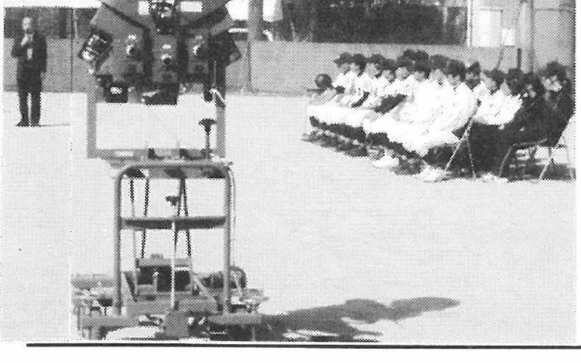
私たち川辺高校野球部は三年生九名、二年生四名、一年生十三名、マネージャー六名の計三十二名で活動しています。

今年の三月に川辺高校野球部ＯＢの先輩方からバッティングマシーンとブルペンの屋根、バッティングで使用するゲージを寄付していただきました。今ではバッティングマシーン二台をつかい充実した練習を行っています。

そのおかげもあって、川辺地区大会、南薩地区大会ではベスト四に入ることができ、少しずつではありますが力をつけています。練習試合でも以前よりチーム全体の打力が上がり、勝率もよくなりました。

そして、勝てば次もこの喜びを味わいたいという意欲、負ければこの悔しさを次には味わいたくないという気持ちが強くなってきました。

秋の県大会、春の県大会と自分たちの力を発揮することができずに悔しい思いをしてきたので、夏の甲子園大会県予選では、普段から指導してくださっている監督さんや部長さん、いつも応援してくれる先生方や両親、父母会の皆さん、そしてなによりも野球部ＯＢの先輩方のために自分たちの力を発揮し、ベスト八を目標に頑張りたいと思います。



そして、いつも温かく見守っていただいている同窓会の皆様に良い結果を報告できるよう、これからも川辺高校野球部は日々の練習に取り組んでいきたいと思います。

これからも応援よろしくお願いします。

初めの一歩を踏み出して

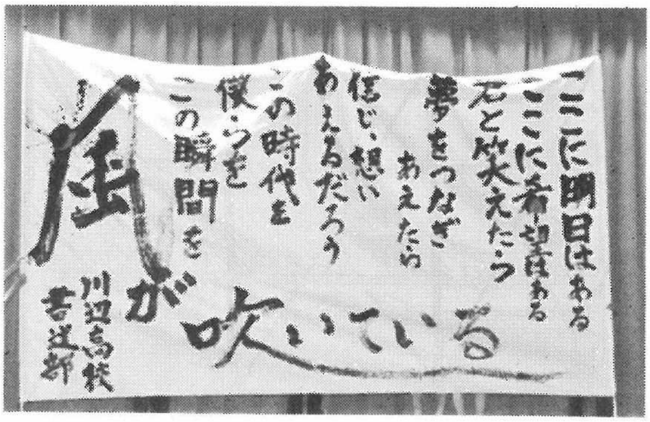
文化祭実行委員長　3年　永手　花奈

今年のテーマは、「The First Step～Toward the11th anniversary～“初めの一歩“～114周年記念へ向けて～」と決めました。

今の私達の取り組みが未来の川辺高校につながるので、その初めの一歩となるような文化祭を目指して、このテーマに決めました。

展示部門では一年生や美術部、芸術選択の作品が注目を集めました。一年生はモザイクアートに取り組みました。「鹿児島にゆかりのある人物」というテーマで制作した作品は、モザイクでありながらも各クラスのカラーが表れていて、感動しました。美術部・書道部・芸術選択者の作品は、日頃の努力の積み重ねによる制作者の個性が十分に引き出された作品が多数展示されていました。鑑賞された人の感性を刺激する作品もあったのではないでしょうか。

バザー部門では、二年生とＰＴＡの方々が中心となって活動してくれました。二年生は唐揚げやシユークリームなどの豊富なメニューでとてもおいしかったです。各教室の装飾にも様々な工夫が見られ、楽しむことができました。ＰＴＡの「かあちゃん食堂」では、メニューのラーメンを買い求める長い列ができるほどの人気ぶりに驚きました。世代を問わないかあちゃんの味を味わえ、お腹も心も満たされました。



ステージ部門では、書道部のパフォーマンスをはじめ、三年生各クラスの劇やダンス、一般参加者やＥＳＳ部、音楽部、そして生徒会といった多くの団体が会場を盛り上げてくれました。どの団体も限られた準備期間の中で自分たちのパフォーマンスを仕上げ、発表しました。笑いや感動ありのステージに目を離せず、充実した時間となりました。

最後は、生徒会が作成した映像とともに、ＡＩの「ハピネス」を全員で合唱しました。肩を組み合い、笑顔で歌うみんなの姿が印象に残るフィナーレとなりました。

今年の文化祭は、多くの関係者の一人一人の献身的な協力と努力によって、成功を収めることができました。文化祭を通し、学校生活が「初めの一歩」を踏み出せたのも、裏から支えてくださった方々のおかげです。この感謝の気持ちを胸に、未来の川辺高校に向けて、一歩ずつ進んでいきたいと思います。

以上で神戈陵祭の報告を終わります。

事務局だより

水溜　孝志（昭55年卒）

【平成二十四年度神戈陵教育振興会奨学生決定の報告】

平成二十四年度「神戈陵教育振興会奨学生」として、三年生は長野愛佑美さんと鮫島想太君と有村尚子さん、二年生は松枝弘実さんと鯵坂史帆さん、一年生は川原真理さんと本村くるみさんと本村このみさんに決定し、認定書及び奨学金が交付されました。

【平成二十五年度のスタート】

四月九日（火）、第六十八回入学式が本校体育館で挙行され、新入生九十五名を迎え、全校生徒三百十一人（男子百十四人　女子百九十七人）で平成二十五年度がスタートしました。

【25年度神戈陵奨学金交付式】

【創立記念講演会】

四月二十六日（金）、恒例の創立記念講演会が開催されました。今回は、ふちだ内科クリニック院長の淵田史朗氏（昭和五十年卒）をお招きし、「回り道でも一歩ずつ」という演題でご講演いただきました。

講演では、高校時代の勉強法の紹介に始まり、九州大学の工学部に入学された後、医者の夢をかなえるために、大学を中退し、医学部を受験した事などのお話をされました。医学部時代には一生付き合える友人たちとの出会いや、奥様との結婚についてお話をされました。千鳥橋病院勤務時代の話では、一人一人の患者さん全てに分け隔てなく、責任を持って対応されてきた事や、医者の激務や苦労が伝わってくるお話でした。講演の終盤には、「人生、目標をもって歩み続けていると、失敗をしたり、悩んだり迷ったりする。むしろそういう事のほうが多いのが、人生である。しかし、それを乗り越えようと努力することで、人は成長していく。十人十色、一人一人の人生は違っても、他人と比較せず、自分の運命に従い、受け入れることで、また前に進む力が湧いてくる。失敗の多い人生であるが、無駄なことはひとつもないのですよ。」と川辺高校の後輩へ心温まるメッセージを送っていただきました。

七月に入り、六日（土）には、同窓会役員会、十日（水）には、評議員会が川辺高等学校会議室にて開かれ、平成二十四年度の会務報告・収支決算や会則の改定および平成二十五年度の同窓会事業計画や収支予算等について話し合いが持たれました。

【平成二十五年度神戈陵教育振興会奨学生決定】

七月五日（金）、三年生を対象にした神戈陵教育振興会奨学生の選考委員会が開かれ、松枝弘実さん、鯵坂史帆さん、橋本七海さんの三名に決定し、七月十八日（木）、校長室で交付式を行いました。

【トピックス】

○川床重弘様（昭和三十九年卒）から川床重弘写真詩集「こころを写す　こころが映る　報道カメラマンが見た南の国の人と動物たち」、岸見勇美様から「高良武久　森田療法完成への道」の本のご寄贈がありました。

○川辺高校野球部を支援する会より『バッティングマシーンおよび移動式ブルペン屋根』のご寄贈がありました。

○四六年卒還暦同窓会様・三六会古希祈念同窓会様・南九州市職員神戈陵会様・昭和三十八年卒古希同窓会様・川辺高校野球部を支援する会様よりご寄付を頂きました。

【同窓会役員会】

川辺高等学校同窓会
平成２４年度　収支決算書

収入の部　(H. 24. 8. 1～H. 25. 7. 31)

費目	当初予算額	予算現額	収入済額	増減	備考
入会金	160,000	160,000	95,000	△ 65,000	1,000円×95人（新入生）
会費	238,000	238,000	234,000	△4,000	2,000円×117人（卒業生）
総会費	400,000	400,000	364,000	△36,000	同窓会総会参加費
繰越金	3,648,497	3,648,497	3,648,497	0	23年度からの繰越金
雑収入	3,503	3,503	546,102	542,599	寄付金(故郷川辺会50,000円　野球部を支援する会387,613円　川辺ライオンズクラブ50,000円ほか）CD販売費，利息など
合計	4,450,000	4,450,000	4,887,599	437,599	

支出の部

費目	当初予算額	充用額	予算現額	支出済額	残額	備考
総会費	400,000	48,235	448,235	448,235	0	同窓会総会費
会議費	100,000	0	100,000	21,000	79,000	会議費
需用費	120,000	52,755	172,755	172,755	0	会報印刷代,トナーカートリッジ代など
通信費	40,000	0	40,000	10,750	29,250	はがき代
慶弔費	100,000	41,750	141,750	141,750	0	転退職員記念品代など
旅費	600,000	0	600,000	425,155	174,845	東京，大阪，東海同窓会などへの旅費
負担金	250,000	0	250,000	240,000	10,000	各地同窓会負担金など
高校振興費	860,000	395,180	1,255,180	1,255,180	0	活性化対策補助，文化祭補助，三校合同演奏会助成など
雑費	90,000	0	90,000	49,110	40,890	各地同窓会への土産代など
予備費	1,890,000	△537,920	1,352,080	0	1,352,080	
合計	4,450,000	0	4,450,000	2,763,935	1,686,065	

収入		支出		残額
4,887,599円	－	2,763,935円	＝	2,123,664円（25年度へ繰越）

特別基金		
川辺高校同窓会	（鹿児島銀行：定期預金）	3,090,839円
川辺高等学校創立百週周年記念事業	（ゆうちょ銀行：普通預金）	1,145,933円
川辺高等学校創立百週周年記念事業	（ゆうちょ銀行：定期貯金）	4,008,768円
110周年川辺高校活性化基金管理会	（ゆうちょ銀行：定期貯金）	6,003,986円

平成２５年度　予算書（案）

収入の部　(H. 25. 8. 1～H. 26. 7. 31)

費目	本年度予算額	前年度予算額	増減	備考
入会金	120,000	160,000	△40,000	1,000円×120人（新入生）
会費	240,000	238,000	2,000	2,000円×120人（卒業生）
総会費	400,000	400,000	0	同窓会総会参加費
繰入金	500,000	0	500,000	積立基金より
繰越金	2,123,664	3,648,497	△1,524,833	24年度からの繰越金
雑収入	336	3,503	△3,167	利息など
合計	3,384,000	4,450,000	△1,066,000	

支出の部

費目	本年度予算額	前年度予算額	増減	備考
総会費	400,000	400,000	0	同窓会総会費
会議費	100,000	100,000	0	役員会など会議費
需用費	120,000	120,000	0	会報印刷代他
通信費	40,000	40,000	0	切手，はがき代
慶弔費	100,000	100,000	0	転退職員記念品代他
旅費	600,000	600,000	0	東京，大阪，東海同窓会などへの旅費
負担金	250,000	250,000	0	各地区同窓会等への負担金他
高校振興費	1,300,000	860,000	440,000	活性化対策事業補助 500,000円 文化祭補助 その他高校の振興に関する費用
雑費	90,000	90,000	0	各地同窓会への土産代他
予備費	384,000	1,890,000	△1,506,000	
合計	3,384,000	4,450,000	△1,066,000	

各地区同窓会連絡先

事務局　川辺高等学校
〒897-0221　鹿児島県南九州市川辺町田部田4150
TEL 0993-56-1151
FAX 0993-56-1152

川辺同窓会	会長	大坪 憲市	高18
	副会長	東 眞宏	高13
	副会長	上東 書三	高13
	副会長	中村 祐子	高14
	副会長	薗田 政嗣	高15
	副会長	川路 磯子	高16
	副会長	森田 剛	高20
	副会長	松久保 正毅	高24
	副会長	高田 政雄	高25
	副会長	新原 誠	高25
	副会長	鮫島 宏規	高26
	副会長	久松 広充	高29
	副会長	松木田 統一	高29
	副会長	宇都 和久	高30
	副会長	太鼓 圭子	高30
	副会長	薗田 一也	高32
	副会長	上之園 修	高33
	副会長	上妻 みゆき	高33
	副会長	宇都 寿彦	高36
	会計	梅橋 省蔵	高26
	監事	宮原 楊子	高14
	監事	野中 正	高18
	監事	有水 秀男	高23
	顧問	菊野 光郎	旧中37
	顧問	東 襄	高5
	顧問	前野 政美	高7
	事務局長	水溜 孝志	高32
東京同窓会	会長	大平 政弘	高11
	副会長	南谷 亘英	高13
	副会長	小原 東洋明	高15
	事務局長	中薗 建一	高21
	事務局		
東海同窓会	会長	飯野 布志夫	高3
	副会長	二反田 統男	高7
	副会長	日置 宏輔	高10
	幹事長	神野 幹彦	高22
関西同窓会	会長	岩屋口 大造	高16
	副会長	梅橋 弘芳	高6
	副会長	河津 由美子	高15
	事務局長	大薗 早夫	高18
福岡同窓会	会長	佐多 竹良	高20
	副会長	堀内 勉	高19
	副会長	上野 修一	高20
	事務局長	南谷 洋至	高26
熊本同窓会	会長	酒匂 光郎	高2
	幹事	梅橋 豊藏	高15
	幹事	丸野 真一	高34
宮崎同窓会	会長	芝原 正文	高19
	副会長	泊 直十郎	高14
	副会長	和田 政吉	高20
	幹事長	松山 輝雄	高11
鹿児島同窓会	会長	椎原 耕	高3
	副会長	前橋 松造	高2
	副会長	東 洋一	高5
	副会長	大迫 晶子	高5
	副会長	窪田 マリ子	高6
	副会長	野添 悦子	高7
	幹事長	溝口 逸王	高7
	監事	栃木 荘次	高13
	監事	黒松 武蔵	高15
	名誉会長	池田 弘	旧中44
	事務局長	寺師 慶志	高18
南さつま地区同窓会	会長	上東 書三郎	高13
	副会長	上野 寿郎	高27
	副会長	中尾 良嗣	高29
	幹事長	西 浩二	高25
	事務局長	木場 正英	高25
知覧地区同窓会	会長	松久保 正毅	高24
	副会長	市坪 政昭	高18
枕崎・坊津地区同窓会	会長	中山 了	旧中39
	副会長	吉見 昭光	高1
	副会長	森 栄子	高24
	幹事長	戸床 安孝	高10

結成予定　鹿屋地区同窓会・川内地区同窓会・指宿地区同窓会・加治木地区同窓会